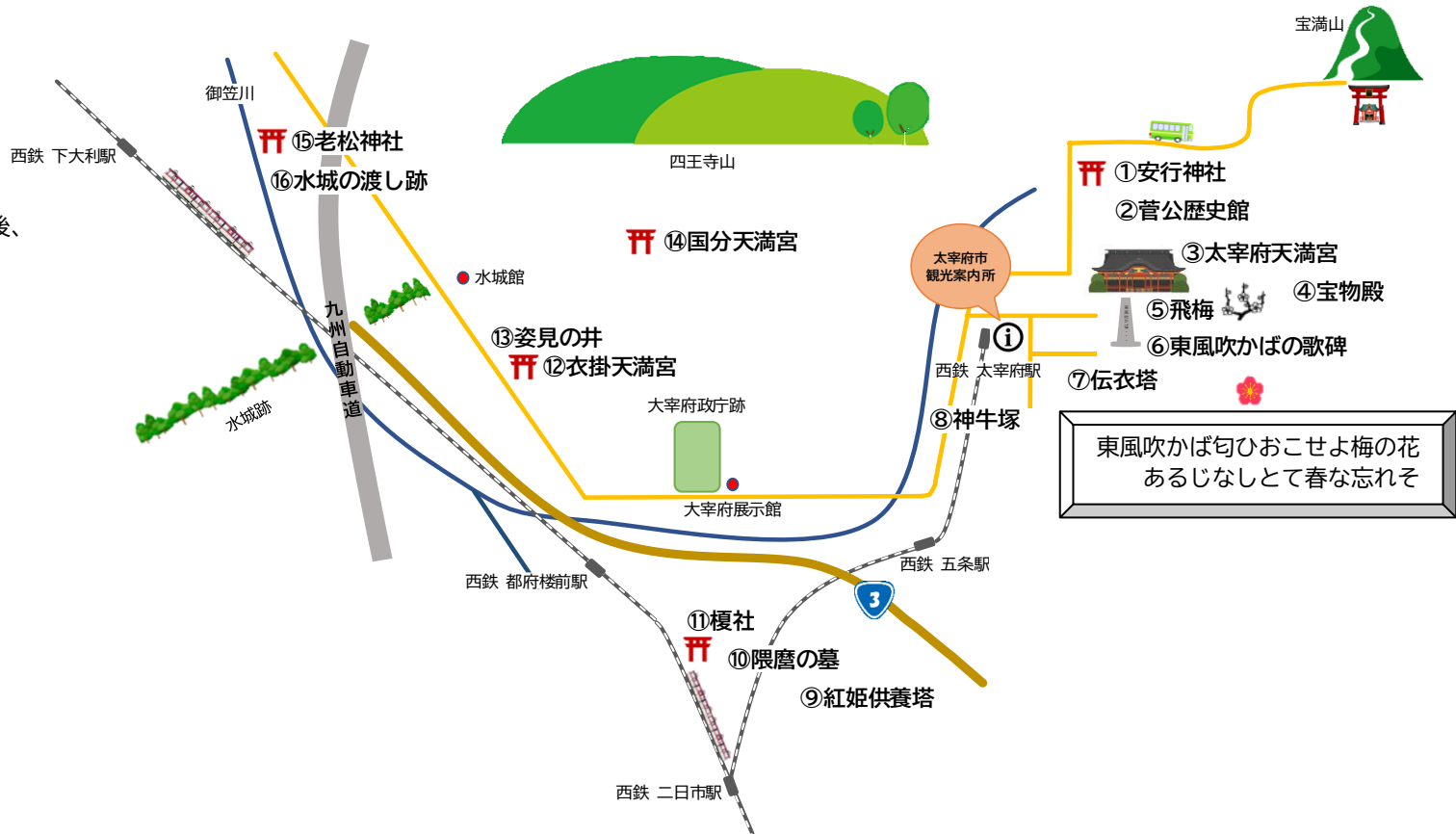




菅原道真公 ゆかりの地

- ① 道真公の門弟、味酒安行を祀る神社。
- ② 道真公の一生を博多人形でわかりやすく紹介している。
- ③ 道真公をお祀りする全国12,000社の天満宮の総本宮。御墓所の上に祠を建てたのが始まりとされる。
- ④ 道真公にまつわる宝物など、約5万点の文化財を収蔵・展示している。
- ⑤ 太宰府天満宮の御神木。大宰府に左遷された道真公を追って都から一夜のうちに飛んで来たという伝説がある。
- ⑥ 道真公が都を去る時、日頃から愛でた庭の梅に想いを残して詠んだ歌 参照
- ⑦ 道真公が一夜のうちに宋（現在の中国）に渡って悟りを開き、その証に僧衣をもらった。聖一国師の弟子がその衣を収めて建てた塔と伝えられる。
- ⑧ 道真公のご遺体を墓所に運んだ牛がその帰り道、突然息を引き取り、憐れんだ人々が牛を葬って塚を建てて供養した。
- ⑨ 道真公の娘、紅姫の供養塔。隈麿と道真公が亡くなった後、1人残された紅姫を憐れみ後世の人が建てた。
- ⑩ 道真公の息子、隈麿の墓。墓の横には六弁の花をつける梅の木がある。太宰府市民遺産に認定されている。
- ⑪ 道真公が亡くなるまでの2年間を過ごした邸宅跡。境内に榎の大樹があったので榎社と呼ばれるようになった。
- ⑫ 道真公を祀る神社。道真公が大宰府に入る際、着替えた旅衣を松と石に掛けた。その松と石を祀ったのが衣掛天満宮と言われる。
- ⑬ 道真公が旅衣を着替えた時、池に映ったやつれた自分の姿を見て悲しみ、池の水をかき回すと水はたちまち濁り、その後決して澄むことはなかったと言われる。
- ⑭・⑮ 道真公を祀る神社。
- ⑯ 道真公が博多から船で御笠川を下り、老松神社近くの渡し場で上陸したと言われる。

菅原道真公(845-903)は優れた政治家・学者・文人として活躍しましたが、無実の罪で大宰府に左遷されました。大宰府では都から共に来た2人の幼子の隈麿と紅姫と貧しく厳しい生活を送り、2年後に亡くなります。死後、無実が証明されて「天満自在天神」という神様の御位を贈られ、「天神様」として崇められるようになりました。現在も「学問・至誠の神様」として世界中の人々の信仰を集めています。



東風吹かば匂ひおこせよ梅の花
あるじなしとて春な忘れそ